

令和 3 年度 東京都立蒲田高等学校 学校経営報告

I 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導においては、学び直しを合言葉に、生徒の学び続ける意欲を育成し、粘り強い指導を通して、基礎学力の定着を図った。

また、デジタル社会(Society5.0)に対応した最適な学びの実現に向けた双方向オンライン学習を実践し、生徒の学びを保障した。

さらに、学習指導要領改訂の全面実施に向けて、指導と評価の一体化を目指した段階的到達目標に基づく観点別評価を、試行結果を踏まえて策定し、各教科で基準を定めた。

イ 進路指導においては、3年間の体系的なキャリア教育計画に基づき、社会的・職業的自立支援教育プログラムの活用やNPO等と連携するなどして、生徒の適性や能力、特性等を早期に把握し、個性に応じた進路選択や生涯に渡って生きる力の伸長に努めた。

また、生徒の多様な進路を実現するため、きめ細やかな進路相談体制を構築し、ユースソーシャルワーカーを活用するなどして、生徒の希望を重視した指導を行ってきた。

ウ 生活指導においては、「日々の生活指導の充実」を大切にし、登校時の声掛け体制を構築し、挨拶や身だしなみ、時間を守るなど基本的な生活習慣の確立、自転車のマナーや安全な利用などに取り組んだ。学校不適応や不登校を防止し、中途退学者数が低減した。

また、人権教育を基軸とした生活指導を継続し、SNSの適正な利用やいじめ防止に取り組み、他者への思いやりなど、生徒一人一人の豊かな心を育む教育の充実に努めた。

地域社会の一員として、社会を明るくする運動(作文コンクール)への参加やボランティア清掃活動体験、バスケットボール部や柔道部、バトミントン部有志による近隣地域の雪かきなどを通して、地域貢献に対する意欲や行動力の育成に取り組んだ。

さらに、生徒の健全育成に向けた指導を一層推進するため、学校生活のルールを点検するとともに見直しを行い、生徒心得や規定等を改訂し、生徒・保護者の理解に努めた。

エ 特別活動・部活動においては、都教育委員会のガイドラインに従い、制限を行いながら新型コロナウイルス感染症対策を講じて創意工夫を重ね、オンラインでのホームルーム活動や生徒会活動、体育祭や文化祭など、新しい日常での学校行事に取り組んだ。

また、生徒の心身の健康を維持するために、部活動の充実に取り組み、硬式野球部の合同チームによる大会参加、特別支援教育の理解推進に向けたダンス部の出場や地域と連携した発表会の開催の他、外部指導員配置による柔道部の大会出場では優勝に輝いた。

オ 心や体の健康づくりにおいては、不安や悩みを抱える生徒に寄り添う支援を充実させるため、教育相談体制の構築と組織的な対応に重点を置き、ケース会議を毎週開催した。

また、特別支援教育の理解に努め、パラリンピック代表選手による講演会を実施するとともに、ユニバーサルデザインや合理的配慮に基づく指導の在り方を題材とした校内研修を開催するなどして、障害への理解を深め、支援が必要な生徒に対する教育環境の整備や通級指導を開始するなど、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に取り組んだ。

カ 募集・広報活動においては、学校説明会等における個別面談、HP用学校紹介動画の配信や公開授業の実施、都教育委員会及び大田区教育委員会等と連携したエンカレッジスクール紹介など、広報活動を拡充させ、戦略的な募集対策で魅力発信に取り組んだ。

(2) 重点目標への取組と自己評価

新型コロナウイルス感染症対策として、時差登校や短縮授業、オンライン授業などの実施により、生徒の学びを保障するとともに、生活時間に一定のリズムを保つことで、落ち着きのある学習環境を提供し、学校生活に充実感を感じられるよう指導を行った。

エンカレッジスクールである本校の特色を生かした取組として、①1学年一部時間帯の30分授業、習熟度別授業、少人数授業等により、学力の基礎・基本を定着させる。

②「分かる授業」の一層の充実を目指し、学習内容や指導法を常に改善し、生徒に学びの達成感や成就感をもたせる。③生活指導における段階的な指導を通して、生徒一人一人が心地よく学校生活を送ることができるよう学校全体で取り組み、ルールを守ることの大切さや互いを尊重し合う態度を育て、社会性と規範意識を育む。④体験的な学習や宿泊研修を充実させるなどして、関係自治体やNPO法人、市民講師との連携を深めた特色ある教育活動を堅持する。⑤外部専門家や相談機関等と連携した学校教育相談体制を充実させ、生徒の特性や心身の状況に応じた適切な支援ができるよう、組織的に対応する。⑥校外での学習や活動に積極的に参加するなどして、生徒が地域に貢献する学校づくりを目指す。⑦体験的な学習を通して職業観や勤労観を育て、地域社会の一員であることの意識を高める。⑧学習活動や体験学習、部活動など様々な機会を通して、各種検定や資格取得を推進する。⑨ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特別活動や部活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、自信をもたせる。⑩心と体の健康づくりを維持・推進することにより、健全育成を図る取組を継続してきた。

学校評価による評価結果は次のとおりである。

ア 学習指導

- ・「授業の分かりやすさ」に対する肯定的意見 維持
学校評価における肯定的評価平均値93.1% (94.3%)
【生徒90.7% (90.0%)・保護者91.0% (94.9%)・教職員97.7% (97.9%)】
- ・「きめ細かく手厚い学習指導」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値89.6% (81.4%)
【生徒87.3% (86.0%)・保護者83.8% (85.6%)・教職員97.7% (93.6%)】
- ・「授業規律と学習環境」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値87.0% (84.3%)
【生徒76.3% (78.3%)・保護者89.5% (85.2%)・教職員95.3% (89.4%)】

イ 進路指導

- ・「情報提供や進路ガイダンス等の充実」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値84.5% (81.3%)
【生徒82.8% (81.3%)・保護者82.4% (75.4%)・教職員88.4% (87.2%)】
- ・「生徒の個性・適性に応じた進路指導」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値87.8% (83.8%)
【生徒80.1% (80.8%)・保護者88.1% (77.1%)・教職員95.3% (93.6%)】
- ・「進路未決定率を減らす取組」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値86.5% (82.0%)

【生徒79.5%（75.8%）・保護者84.8%（76.7%）・教職員95.3%（93.6%）】
ウ 生活指導・特別活動・部活動

- ・「段階的な指導の取組」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値85.5%（85.2%）
【生徒75.0%（74.3%）・保護者88.6%（87.7%）・教職員93.0%（93.6%）】
- ・「いじめの取組」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値90.7%（85.6%）
【生徒85.0%（79.4%）・保護者89.5%（86.0%）・教職員97.7%（91.5%）】

エ 美化・健康づくり

- ・「美化・清掃等による学習環境整備」に対する肯定的意見 改善
学校評価における肯定的評価平均値87.9%（85.1%）
【生徒81.6%（79.5%）・保護者91.4%（90.7%）・教職員90.7%（85.1%）】
- ・「面談週間の設定、1学年人担任制、養護教諭の二人体制など、心のケア」に対する肯定的意見 課題
学校評価における肯定的評価平均値85.4%（87.3%）
【生徒81.2%（81.1%）・保護者86.7%（89.4%）・教職員88.4%（91.5%）】

オ 入試・募集・広報活動・学校生活に対する満足感

- ・入学者選抜応募倍率（推薦） 改善
【男女計1.93倍（1.78倍） 男子1.96倍（1.67倍）・女子1.91倍（1.91倍）】
- ・入学者選抜応募倍率（分割前期） 改善
【男女計1.10倍（0.83倍） 男子1.27倍（0.87倍）・女子0.93倍（0.79倍）】
- ・入学者選抜応募倍率（分割後期） 改善
【0.50倍（0.22倍）】
- ・東京都中学校校長会進学対策委員会の志望倍率 改善
【男女計1.02倍（0.92倍） 男子1.13倍（0.96倍）・女子0.89倍（0.88倍）】
- ・進路決定率 改善
【99.1%（98.0%）】

※数値の（ ）は前年度実績である。

2 翌年度以降の課題と改善策

（1）学習指導

平成29年度から全学年全生徒が、「朝学習」（学校設定教科・科目「社会教養」）に取り組み、基本的な学習習慣を確立し、学び直しの機会による基礎学力の定着を目指して指導を続けてきた。今後は、生徒の学習状況や進路希望など、生徒個々の実情を見極め、実態に即した学力の向上を目指した研究を進めていくことが求められる。また、タブレット端末を活用した授業の実践など、ICT利活用の充実を図るとともに、段階的到達目標に基づく観点別評価を導入していくことにより、指導と評価の一体化を目指し、生徒の自発的な学びに結び付ける必要がある。

（2）進路指導

進路決定率は99.1%であった。内訳は、四年制大学19.6%、短期大学3.6%、専門学校34.8%、その他進学8.0%、就職27.7%、進学等準備5.4%、未決定0.9%であった。

進路の自己実現に向けた進路選択に導く指導を早期から段階的かつ計画的に進めていく。

四年制大学は、今後も厳しい状況が予想される。基礎学力はもとより、コミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力等の意図的・計画的な育成に努めていく。

(3) 生活指導・学校生活

ア 学校行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、全校生徒が参加する体育祭、マラソン大会、宿泊体験研修は中止した。文化祭は、各ホームルーム単位での制作動画の発表や、文科系部活動の成果発表や「体験」(琴曲)選択生徒による演奏などを行った。今後も新しい日常における学校行事の在り方を検討していく。

イ 部活動

運動系部活動 14部、文化系部活動 7部、同好会 2部を設置している。生徒の心身の健康を維持するためにも、部活動の活性化が喫緊の課題である。部活動体験の機会を増やし、加入率を高め、放課後の学校生活の居場所を提供するとともに、部活動指導員や外部指導者による部活動指導や地域と連携した交流活動など、質・量ともに改善を図り、部活動の一層の充実に取り組む。

(4) 組織体制

学校経営上の課題に対する指揮系統を明確にしつつ、迅速かつ組織的な対応を図る足掛かりが構築された。今後は、教員の授業力の更なる向上を目指し、教育課題に対応した校内研修やプロジェクトチームを設置するなどして、有為な教育人材を育成する。

なお、教員の働き方改革の視点を踏まえ、都教育委員会の指定事業や外部人材を活用するなどして、校内組織体制と業務の見直しには引き続き優先課題として取り組んでいく。